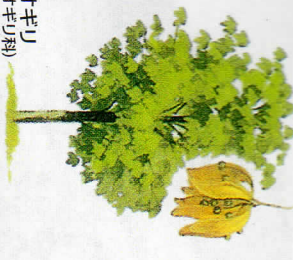




アオキ
(ミズキ科)
青々とした大きな葉と、冬に色づく紅色の実が特徴。葉とや日陰にも強く、世界中で庭木として広く親しまれている常緑低木。葉は葉として広く、やけなどにも用いられる。



アオキギ
(アオキリ科)
切。中木の樹は樹皮が名前の通り緑色で、老木は灰白色の落葉広葉樹。葉は掌の形に大きく、15~30cmの長い柄がある。庭や公園に植えられ、中国ではほめていた木とされている。



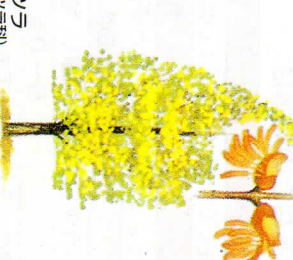
アザミ
(ユキノシタ科)
梅雨時に美しい花を咲かせる落葉低木で、庭木にもなる。緑葉、切り花としても人気がある。高さは1~2mで、樹皮は淡い褐色。葉は厚く、光沢がある。



イチョウ
(イチョウ科)
落葉針葉樹だが、扇形の葉で親しまれ、巨木になり天然記念物に指定されるものも多い。雌雄異株で雄木は枝の出方が立形、雌木は広がり形が多く、秋に「ぎんなん」の実がある。



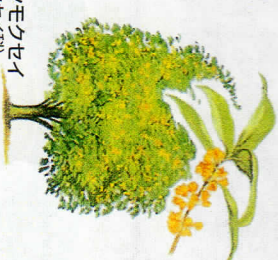
エゴノキ
(ゴノキ科)
落葉広葉樹で生長は速いが高くて10mどまり。5~6月頃に5弁の白い花が垂れ下って咲き、葉は柳形で幼虫が食って生息。果皮中にエゴポニウムという毒を持つ。



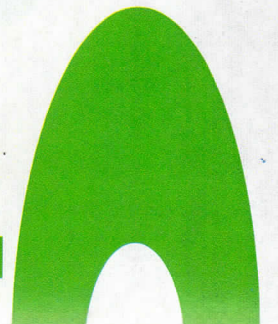
カツラ
(カツラ科)
大きなものでは高さ35m、直径2mにもなる落葉広葉樹。深緑の葉とよく生える。春の新緑、秋の高葉と木に美しい。材は緻密に優れた材で、家具などに用いられる。



アカマモチ
(ヒトコ科)
春の若葉が赤くて美しいことから、アカマモチの名がある常緑広葉樹。東海以西の山地などに見られ、主に生垣として植えられることが多い。5、6月頃、枝先に白い花が咲く。



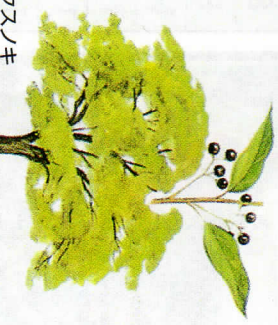
キンモクセイ
(モクセイ科)
秋に淡く橙黄色の花が、甘い香りを漂わせる常緑広葉樹。葉は先がとがり、細長い。よく似たものにキンモクセイがあるが、こちらの方は花が黄白色で、香りがやや弱い。



クヌシ
(クヌシ科)
日本産の樹木で最大の常緑広葉樹で高さ40m幹回り20cmに達するものもあり、巨木は御神木として神社境内によく見られる。根皮と葉は薬用に、葉と材片からは「韓劇」を採る。



クナナシ
(クナナシ科)
夏、香りのよい白色の六弁花を咲かせる常緑広葉樹。高さは1~3mで、葉には光沢がある。また、果実は古くから黄色染料として、乾したものは薬用として用いられる。



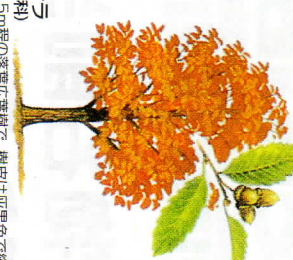
クヌシ
(クヌシ科)
日本産の樹木で最大の常緑広葉樹で高さ40m幹回り20cmに達するものもあり、巨木は御神木として神社境内によく見られる。根皮と葉は薬用に、葉と材片からは「韓劇」を採る。



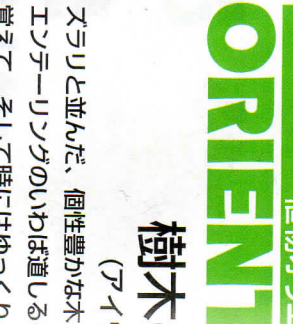
クナナシ
(クナナシ科)
夏、香りのよい白色の六弁花を咲かせる常緑広葉樹。高さは1~3mで、葉には光沢がある。また、果実は古くから黄色染料として、乾したものは薬用として用いられる。



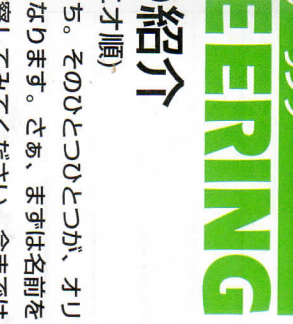
クヤキ
(ミズキ科)
美しい新緑の姿と落葉後の枝が白く人目をひくクヤキは、(狭義)花木の代表格をもち、関東地方に多く見られる落葉広葉樹。木は優秀な建築材、器具材となる。



コナラ
(クナラ科)
高さ10m程度の落葉広葉樹で、樹皮は灰黒色で縦に浅く不規則な裂け目がある。ミズナラとの区別は、葉柄のあるのがコナラ、公園や庭園では野鳥の趣きを作り出すのに多く使われている。



ミズキ
(ミズキ科)
春先に葉を折ると、多量の樹液を分泌する。ことから「水木」の名がついた落葉広葉樹。初夏に白色の小花をつけ、秋には黒紫色の実が熟す。材は軟らかく、細工しやすい。



モクシ
(モクシ科)
葉は厚く光沢のある常緑広葉樹。10月頃には紅い球形の実をつけ、樹皮から「黒毛」を作る。潮風、煙害、大気汚染に強く、防風にもある。



サンシュユ
(ミズキ科)
またの名をハハコガサバキとも言い、早春に鮮やかな黄色の花を集めてつける落葉広葉樹。葉は楕円形で、先が鋭く尖っている。晩秋に霜が実を生長させることができる。



ソメイヨシノ
(ヒトコ科)
オオシダザクラとエドヒガシとの交配により生まれた、サクラの中で最も知られた品種の落葉広葉樹。葉が先で淡紅色の花を咲かせる。街路樹や学校などによく植えられ、生長は速いが60年程度の短命。

ORIENTAL CLUB

植物オリエンタル

樹木の紹介

(アイウエオ順)

スラリと並んだ、個性豊かな木々たち。そのひとつひとつが、オリエンタルクラブのいわば道しるべとなります。さあ、まずは名前を覚えて、そして時にはゆっくりと観察してみてください。今までは気が付かなかったいろいろな不思議に、あなたはきっと出会えます。



ニシキギ
(ニシキギ科)
秋の紅葉が、節のように美しいことからその名が生まれた落葉低木。庭木用としてよく植えられており、枝が褐色で、のちにコルク質の樹皮が発達する特徴。



ヒノキ
(ヒノキ科)
常緑針葉樹で、小さな葉が鱗状に集まって大きな葉になる。また、樹皮は赤褐色で縦に裂ける。日本特産の樹木で、その光沢と香り、耐材性の高さから用途はきわめて広い。



ミズキ
(ミズキ科)
春先に葉を折ると、多量の樹液を分泌する。ことから「水木」の名がついた落葉広葉樹。初夏に白色の小花をつけ、秋には黒紫色の実が熟す。材は軟らかく、細工しやすい。



モクシ
(モクシ科)
葉は厚く光沢のある常緑広葉樹。10月頃には紅い球形の実をつけ、樹皮から「黒毛」を作る。潮風、煙害、大気汚染に強く、防風にもある。



ヤマナシ
(ヒトコ科)
日本各地の山野で見られる落葉低木で、4~5月頃、緑色の樹に鮮やかな黄色の花が咲く。5つ葉字では山梨と書くが、もともとは山で枝が風にむく山梨からきている。



コキヤナシ
(ヒトコ科)
3~4月頃に、白い小さな花が枝の節々にかたまると咲く。別名コシメナシともいう落葉広葉樹。関東以西の川岸に生え、花蜜や生垣などによく見られる。